

宇部港湾・空港整備事務所からのお知らせです

『徳山下松港・宇部港における石炭サプライチェーンの継続に関する机上演習』を実施しました

■平成31年1月21日 宇部興産ビルにて開催■

今後起こりうる大規模災害や、事故・テロといったあらゆる事象においても、石炭や石炭を燃料として製造される製品の物流（石炭サプライチェーン）を継続させるため、災害を想定した机上演習を実施しました。

【昨年度までの達成状況】
各社間での情報共有の枠組みを構築

【今回の机上演習の目的】
共有された情報の活用方法の具体化
と情報共有をより効率的に実施する
ための課題と対策の検討

共有された情報に対して、すばやく対応するためには・・・？



今回の演習では、「lino」というツールを使用し情報の共有を行った。

次々に情報が更新されるので、どの情報が重要度が高いのか分からなくなる。付箋の色を変えるなどして、重要度が分かるとよい。

「港湾運営会社」の役割については、今後考えていくべき課題である。

プレイヤー（石炭取扱企業7社）とコントローラー（行政関係・港湾運営会社）に分けて、港湾施設が使えないという条件下において、連携体制が構築されている場合を想定。

報告をする際、どのような情報が必要かルール化する必要があるのではないか。



現代の生活において必要不可欠である「石炭」の物流をあらゆる事象においても継続させるため、各企業・各地区で連携し助け合う。